

データでみる！ 中学校における 指導力向上の取り組みと生徒の実態

言語活動の充実や授業改善のために、中学校ではどのような取り組みを行っているのだろうか。授業に対する生徒の意識や態度はどのようなものか。データから実態を把握し、課題を考える。

1 「言語活動の充実について教員の 共通認識を高める」学校は約6割

Q. 今年度(2010年度)、言語活動の充実のために
全校的な取り組みとして行うことがありますか
(回答：中学校主幹教諭・教務主任/複数回答)

読書の時間を設ける(朝の読書など)



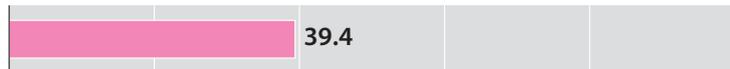
言語活動の充実について教員の共通認識を高める



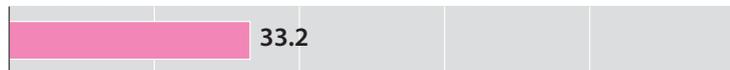
言語環境を整える(辞書や新聞の活用、図書館の充実など)



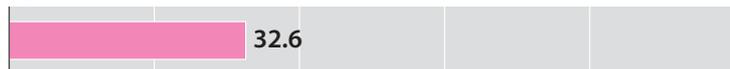
全校的な集会などで生徒の発表の機会を増やす



各教科で論述、記述、レポートを書くことを重点的に指導する



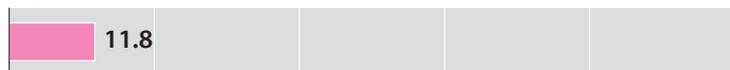
各教科の指導計画に言語活動を位置づける



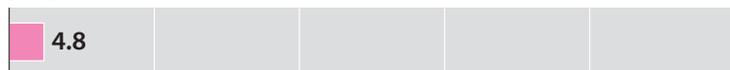
言語活動の充実のために教科間の連携を図る



家庭と連携した読書活動を推進する



その他



0 20 40 60 80 100 (%)

注) サンプル数は3,366人

出典/ Benesse 教育研究開発センター「中学校の学習指導に関する実態調査報告書」(2010年)

<http://benesse.jp/berd/> >「調査・研究データ」>「学校・教員の実態や意識について」

言語活動の充実のために学校全体で「教員の共通認識を高める」取り組みを行っているのは、56.6%。「各教科の指導計画に言語活動を位置づける」は32.6%、「言語活動の充実のために教科間の連携を図る」は20.4%にとどまる。

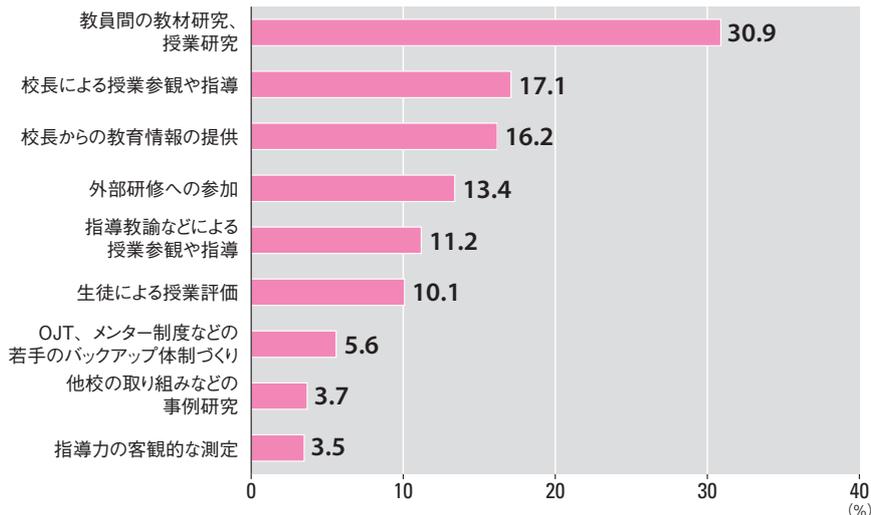
「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

2 3割の校長が「教員間の教材研究、授業研究」に力を入れている

Q. 貴校では、教員の指導力を向上させるために、次のことにどれくらい力を入れていますか(回答：中学校校長)



注1) 数値は、「力を入れている」の%

注2) サンプル数は573人

出典 / Benesse 教育研究開発センター「第5回学習指導基本調査(小学校・中学校版)」(2010年)

<http://benesse.jp/berd/> > [調査・研究データ] > [学校・教員の実態や意識について]

言語活動だけでなく、全体的な教師の指導力向上のために校長が「力を入れている」ことで最も高かったのは「教員間の教材研究、授業研究」で3割。次いで「校長による授業参観や指導」が17.1%、「校長からの教育情報の提供」が16.2%だった。「OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」は、5.6%にとどまった。

3 「先輩・同僚からアドバイスをもらう」教師は、外国語で8割、社会と理科で6~7割

Q. 教科指導や生徒指導に関して、次のことをどれくらいしていますか(回答：中学校教師 / 全体平均・担当教科別)

	全体平均	国語	社会	数学	理科	外国語
校内で教材・授業研究をする	87.1	86.6	85.9	89.2	85.6	87.8
関連する雑誌や本を読む	78.9	83.7	82.8	72.0	77.9	79.3
関連する番組やサイトを調べる	74.1	70.5	79.3	68.2	79.1	74.8
先輩・同僚からアドバイスをもらう	72.9	74.9	66.5	73.5	69.0	80.1
学校外の研修・セミナー(学会、研究会などを含む)に参加する	52.1	58.8	48.6	48.7	47.0	56.9

注1) 数値は「よくする」+「ときどきする」の%

注2) サンプル数は2,827人(国語529人、社会510人、数学636人、理科545人、外国語559人)

注3) 濃いアミかけは全体平均より5ポイント以上高いもの、薄いアミかけは5ポイント以上低いもの

出典 / Benesse 教育研究開発センター「第5回学習指導基本調査(小学校・中学校版)」(2010年)

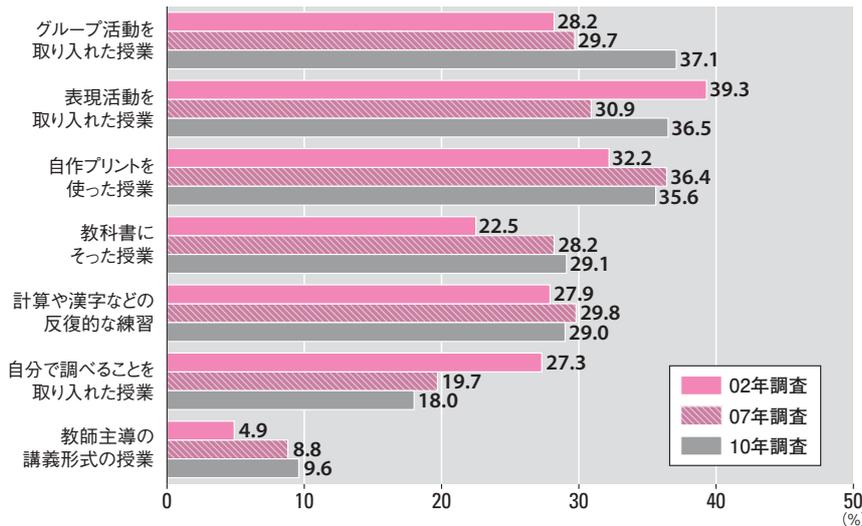
<http://benesse.jp/berd/> > [調査・研究データ] > [学校・教員の実態や意識について]

どの担当教科の教師も「校内で教材・授業研究をする」と回答した比率が最も高く8割5分~9割弱。一方、「学校外の研修・セミナー(学会、研究会などを含む)に参加する」はどの教科でも最も比率が低い。

また、担当教科別にみると、数学は他の教科よりも関連する雑誌や本、番組やサイトによる情報収集が少ない。外国語は先輩・同僚からアドバイスをもらうことが他の教科よりも多い。

4 グループ活動、表現活動を取り入れた授業を心がける教師が増加

Q. 教科の授業において、どのような授業方法を心がけていますか
(回答：中学校教師／経年比較)



注1) 数値は「多くするように特に心がけている」の%

注2) サンプル数は、02年調査2,891人、07年調査2,109人、10年調査2,827人

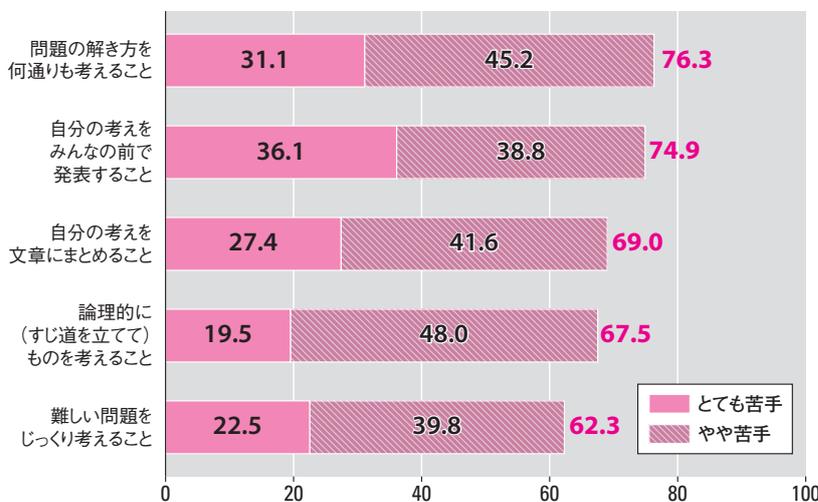
出典／Benesse 教育研究開発センター「第5回学習指導基本調査(小学校・中学校版)」(2010年)

<http://benesse.jp/berd/> >「調査・研究データ」>「学校・教員の実態や意識について」

教師が心がけている授業方法を経年変化で見たところ、「グループ活動を取り入れた授業」は、この9年間で増加している。「表現活動を取り入れた授業」は02年調査から07年調査にかけて一度減少したものの、10年調査では再び増加に転じた。一方、「自分で調べることを取り入れた授業」は減少傾向にある。

5 「考えをみんなの前で発表すること」「論理的にものを考えること」が苦手な生徒は約7割

Q. あなたは次のようなことが得意ですか、苦手ですか(回答：中学生)



注1) グラフ右側の赤字は「とても苦手」+「やや苦手」の%

注2) サンプル数は3,917人

出典／Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2009年)

<http://benesse.jp/berd/> >「調査・研究データ」>「小学生～高校生の学力・学習について」

中学生の約75%が、問題の解き方を複数考えたり、自分の考えをみんなの前で発表することが苦手だと感じている。また、「自分の考えを文章にまとめること」「論理的に(すじ道を立てて)ものを考えること」を苦手と感じている生徒も7割近い。

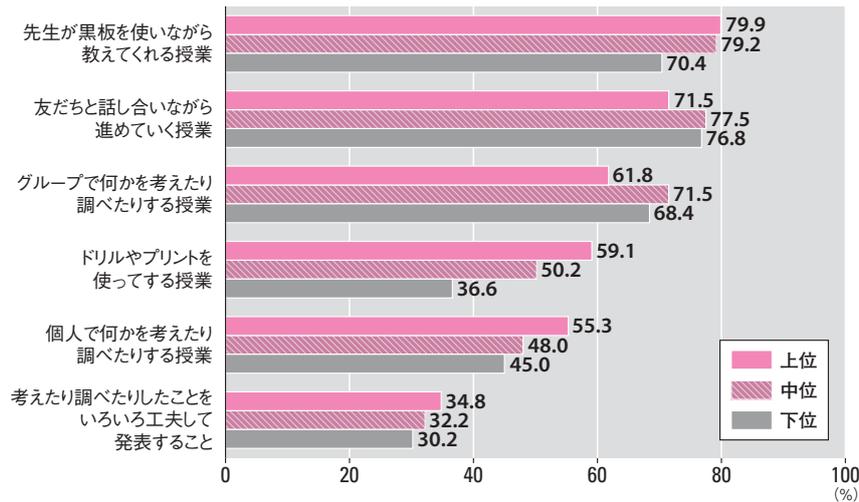
「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

6 「ドリルやプリントを使ってする授業」が好きな生徒は、学力下位層で減少

Q. 次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか(回答：中学生/学力層別)



「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」「友だちと話し合いながら進めていく授業」が好きな生徒は7～8割。「ドリルやプリントを使ってする授業」や「個人で何かを考えたり調べたりする授業」が好きな生徒は3～6割で、学力下位層ほど比率が低い。

注1) 数値は「とても好き」+「好き」の%

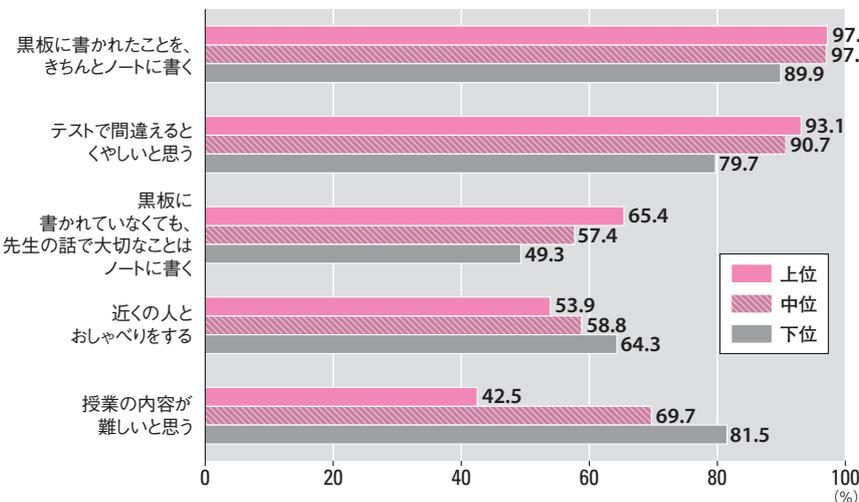
注2) 学力層は、学力実態調査の国語と数学の偏差値の合算から算出(上位492人、中位667人、下位513人)

出典/ Benesse 教育研究開発センター「第4回学習基本調査・学力実態調査」(2006年)

<http://benesse.jp/berd/> >[調査・研究データ]>[学習基本調査]

7 「黒板に書かれていなくても大切なことはノートに書く」生徒は、学力下位層で減少

Q. あなたの授業中の様子についてお聞きします(回答：中学生/学力層別)



「黒板に書かれたことをきちんとノートに書く」生徒は9割と、どの学力層でも比率が高い。一方、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」は学力層によって差が見られ、学力下位層で比率が低い。

注1) 数値は「よくある」+「時々ある」の%

注2) 学力層は国語と数学の偏差値の合算から算出(上位492人、中位667人、下位513人)

出典/ Benesse 教育研究開発センター「第4回学習基本調査・学力実態調査」(2006年)

<http://benesse.jp/berd/> >[調査・研究データ]>[学習基本調査]